

Title	大阪金石史, 木崎愛吉編
Sub Title	
Author	武田, 勝藏(Takeda, Katsuzo)
Publisher	三田史学会
Publication year	1923
Jtitle	史学 Vol.2, No.2 (1923. 2) ,p.95(255)- 96(256)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19230200-0096

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

十一月十一日(武田勝藏)

京都名家墳墓錄附略傳並二
碑文集覽 (寺田貞次編)
山本文華堂發行

本書は菊版上下二卷(二冊)より成り、其の出版は其の凡例中に記す如く、諸名家墳墓の所在を明にし、其の湮滅を防ぎ、參拜の便に資するを以て眼目として居る。其の收むる處は著者の參詣せる山城國內の諸名家の墳墓二千餘にして、大正の初に至る。其の記述は參詣者の便を計り京都を中心として五區に分ち、更に是れを小分してある。

次に本文は先づ人名を擧げ、其人に位階あれば其肩に記し、次に所在を明らかにし、それも各寺院にありては其の墓域を數域に分ち、南北東西墓域の名稱を用ひ、各墓にては更に墓列の數と其墓列の一端よりの歩數とに依り墓碑の位置を定めてある。次に墓碑の寸法並に其の形式、次に刻文、最後に其の人の略歴を附してある。この略歴の終には其の引用書名を附してある事は非常に便宜を感じるのである。又下卷の終には「索引」を附し、其れには第一御陵墓、第二名家、第三所在地にして、更に墓碑様式圖を附してある。

要するに本書は京洛附近に存在する名墓の大部分を收むるを以て、同地方に遊ぶものは本書を繙き、自己の兼てより書籍等によりて知る故人の墓を訪れ香華を捧げ、其の靈を慰む事はあながち無駄の事であるまい。

書評

紹介の序に著者に希望する處一二を記して置かう。本書には參拜の便のため御陵の名は掲げてあるが、其の説明を缺きたるは富岡鐵齋氏の注意によるとの事であるが、御陵と普通墳墓とは境を作りて記すか、或は又他の方法を以て不敬に渡らざる範圍に加へられむ事を希望する。次に墓碑の形式を分類したる「墓碑様式圖」は参考となるべきものであるが、各圖が餘り小にして且數十圖を一頁に掲ぐるを以て甚だ複雑し、充分に其の形式を窺ふ事が出来ぬ、それ故再版の節には各圖を少しく大にし且つ一頁二十圖位にしてもらいたいのである。猶墓碑様式の代表的ものを寫眞版として挿入せられたならば更に本書に光をそへると思はる。

先きに前號紹介の近畿墓石考大阪部出で、今又本書の公にせらるゝ事は吾等考古に興味を有するものゝ喜ぶべき處である。我が三大都市中既に京都大阪の兩市は公にせられたるに東京のもの僅に一二あるも、それも一小部分に過ぎざるは遺憾である。篤志家の編纂せられる事を希望する。(武田勝藏)

大阪金石史

(木崎愛吉編)
上方文化協會發行

さきに大日本金石史(三卷、附圖一函)の編ある好尚木崎愛吉氏は今回十二月廿五日其の續篇第四卷として氏の生所たる大阪並に其の郊外、府下に亘りて遺存する金石文中元和元年より元祿十六年に至る約九十年間、徳川時代初期に屬する部分のみを蒐集編述せられ「大阪金石史」(六百十六頁)と題して公にせられた。

(三五)

次に其の内容を見るに、前中後の各編に分たれ、其の前編には元和元年より萬治三年に至る五十三種、中編は寛文元年より貞享五年に至る百十種、後編には元祿三年より同末年迄百五十三種、外に追補として二十九種を収め、更に附録として慶長以前のもの九種を巻尾に添られてある。又巻初には圖版三十九種を挿まれ參考となるば云ふまでも無い。

前記の如く先きに大日本金石史の出版終るや矢つぎ早に今本史の出版を見るに至り、我等讀者は氏の精力に敬服せざるを得ないのである。最近同氏上京の節、氏は引續き大日本金石史中に漏れ或は其の後の發見にかゝるものを一括し其の補遺として出版の準備中であり、並に更に何人も未だ手を下さざりし東京金石史の編纂も計畫申なる事を話されて居つた。猶本史にも豫告してあるが「西鶴研究」を不日出版せらるゝとの事である。(十二月廿九日 武田勝藏)

奈良縣高市郡神社誌

(高市郡教育會發行)

高市郡は大和の塊區なる畝傍地方を包有し到る處に神跡靈地存して、一郡式内社に坐するもの五拾有餘にして、其外由緒淺からざるもの少く無い。本誌これ等諸神社の位置、社格、祭神、御神體由緒沿革、神事、神德等より所傳の文書記録什器等に至る迄詳述し、猶建造物氏子等につきても記してあり、神社研究者は云ふ迄も無く、旅行者の必讀の書である。

次に參考迄に目次を擧げて見ると、

第壹編(前篇)第一章神の意義、第二章神の種類と性質、第三章神社の種類、第四章本郡神社の沿革概説、第五章本郡神社祭神事蹟
第貳編(各篇)第一官幣大社(一)第二郷社(四)指定村社(四一)第四村社(五四)第五無格社(二二)第六雜社(一〇)第七廢社(一〇)第八舊社趾(五)

第參編(後篇)第一章本郡神社の祭神略系譜、第二章本郡神社の祭神と其の神社、第三章本郡各町村の神社一覽、第四章本郡神社の古刻銘一覽、第五章本郡神社の鳥居石燈籠狛犬御湯釜一覽表、第六章本郡神社に關する主要年表

第四編(附録)第一章本郡舊神職家略系圖、第二章神社祭祀令並祭式

猶本誌卷首に神社の寫真七枚の外に本文中に種類參考となる挿圖がある。(武田勝藏)

熊野民謡集

(松本芳夫編 郷土研究社發行)

熊野は昔から民謡の題材を多く呈供してゐる。然らばその熊野自身に如何なる民謡が行はれてゐるか。本書は主として東牟婁郡の中部、太田川沿岸地方の民謡を採録して此問題に一部の解答を與てゐるのである。著者自身は熊野の人であり、黒潮の流れ密柑の實る此郷土に育まれた新進の史學者にして亦歌人である。氏によつて本篇がなつたのはげだし其人を得てゐると云はねばなら